

株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで

剰余金の配当の基準日 期末配当金 毎年9月末日
中間配当金 毎年3月末日

定時株主総会 毎年12月開催

公告方法 電子公告(<http://www.ic-net.co.jp/home/ir>)
ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
(神田錦町三丁目ビルディング6F)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

郵便物送付先 〒168-8522
(連絡先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
☎0120-49-7009
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

単元株式数 100株

● 株式に関する各種手続の申出先について

- ▶ 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等は、お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
- ▶ 未支払配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

 株式会社 **インフォメーション クリエーティブ**

本社 〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目22番7号
TEL.03-5753-1211
FAX.03-5753-1220
<http://www.ic-net.co.jp>

当社ホームページ



IR情報トップページ



<http://www.ic-net.co.jp>

当社ホームページには、株主・投資家様向けの「IR情報」のほか、当社のサービス提供内容を詳しく説明した「お客様向け情報」、人材を重要な経営資源と考え、充実した教育体制なども盛り込んだ「採用サイト」など、様々な情報を掲載しております。ご覧いただければ幸いです。

IC REPORT

ICレポート

2015年10月1日～2016年9月30日



<http://www.ic-net.co.jp>

 株式会社 **インフォメーション クリエーティブ**

証券コード：4769





代表取締役社長 山田 亨

● 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

私ども、株式会社インフォメーションクリエイティブは、この度、中期経営計画『Advance 2016』の最終年度である2016年9月期の決算を終了いたしました。3年前に立案した当初計画に対しては、売上・利益ともに未達となりましたが、売上高は6期連続の増収となり、利益面でも営業利益・経常利益ともに大幅な増益を果たすことができました。

2016年10月からは、2017年9月期を初年度とする新中期経営計画『Further Advance 2019』をスタートさせております。前中期経営計画に引き続き、“挑戦型の経営”を継続して追求し、長期経営目標として「売上高100億円企業」を目指して“更に前進”してまいります。

株主の皆様には、引き続き当社の経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

● 創業の思い

「情報社会の発展に創造性を以って
社会に貢献する企業でありたい」

● 企業理念

- ▶ 情報処理のサービスを以って、社会に奉仕します。
- ▶ 企業の理念に賛同、投資頂いた株主に奉仕します。
- ▶ 組織と共に成長を続ける社員に奉仕します。

● 経営姿勢

あらゆるステークホルダーの皆様とともに発展し、持続的な経営成長を推し進め、企業価値の向上を目指します。

当期の概況と次期の見通し

当期は、6期連続の増収に加え、大幅な増益となりました。

当期の業績は、売上高が前期比7.2%増と6期連続の増収、利益面でも、営業利益が同40.0%増、経常利益が同30.7%増、当期純利益が51.1%増と、大幅な増益となりました。

事業部門別の状況を見ると、ITソリューション事業の売上高が前期比6.4%増、ITサービス事業の売上高が同51.1%増となっております。基幹事業であるITソリューション事業では、金融・証券・保険等を中心とした旺盛なシステム投資を背景に、ソフトウェア開発、システム運用ともに着実に売上成長が持続しており、これが大きな利益貢献を果たしました。特に、システム運用において、低下圧力が続いていたエンジニアの単価が総じて“あるべき単価”へと改善に向かう環境となりつつあることも奏功しております。

加えて、新規事業領域に属するITサービス事業が売上・利益

の両面で大幅に伸張し、これも増益要因の一つとなりました。特に、大手プレイガイドサービス「CNプレイガイド」との連携により昨年提供を開始した業界最大級のチケットングネットワーク「チケットGATE」が、着実に収益を積み上げてきたことが、同事業部門の当期増益の最大の要因となりました。

次期(2017年9月期)は、新中期経営計画の初年度となります。業績予想は、下表のとおり増収ながらも、利益面では残念ながら減益を見込んでおります。主な理由としては、退職給付金の利回り変動に伴う費用増加、新規事業等に伴う投資費用の発生等を織り込んだものとなっているためです。全社一丸となって経営に取り組むことで、予想を上回る業績を目指してまいります。

当期業績の主なポイントと次期の見通し

| 当期の業績 | | 主な事業の状況 | 次期(2017年9月期)の業績見通し | |
|---------|----------------------|---|--------------------|----------------------|
| ● 売上高 | 72億82百万円 (前期比 7.2%増) | ● 「ソフトウェア開発」の売上高は 32億72百万円(前期比7.8%増) | ● 売上高 | 76億67百万円 (前期比 5.3%増) |
| ● 営業利益 | 4億56百万円 (前期比 40.0%増) | ● 「システム運用」の売上高は 38億30百万円(前期比5.3%増) | ● 営業利益 | 3億68百万円 (前期比 19.4%減) |
| ● 経常利益 | 4億97百万円 (前期比 30.7%増) | | ● 経常利益 | 4億4百万円 (前期比 18.7%減) |
| ● 当期純利益 | 3億12百万円 (前期比 51.1%増) | | ● 当期純利益 | 2億71百万円 (前期比 13.3%減) |

前中期経営計画の総括

増収増益基調を確保し、一定の成果を積み上げることができました。

前中期経営計画『Advance 2016』は、「100億円企業」を目指す長期経営目標の達成に向け、「挑戦型の経営」を推進する第一弾の取り組みでした。

定量目標に対しては未達となったものの、増収増益基調を確保することができた点を評価しております。

定性的な面では、基本戦略として「ITソリューション事業の安定成長」、「ITサービス事業の成長加速」等を掲げて取り組み、一定の成果を獲得することができました。

「ITソリューション事業の安定成長」を図るべく、営業力の強化を推し進めました。営業人員を計画的に増強すると同時に、「パートナー推進部」を設置してパートナーとの連携強化、パー

トナー人材の育成等に取り組み、中計3カ年の間、増収基調を確保することができました。また、システム開発の一括請負案件の伸長にも取り組みましたが、これについては残念ながら、クライアント企業の投資計画の遅延などの影響を受け、十分な成果を得るまでには至りませんでした。

「ITサービス事業の成長加速」については、一昨年に立ち上げた美容サロン関連の新サービスが1年足らずで、投資回収に至らずに中止となるなど、失敗に終わったプロジェクトもありましたが、その一方で、「チケットGATE」（前述）において、僅か1年で収益化を図ることができ、今後の成長加速の基礎を築くことができたと考えております。

新中期経営計画の概要

“挑戦型の経営”を継続して追求してまいります。

新中期経営計画『Further Advance 2019』では、前中期経営計画に引き続いて“挑戦型の経営”を継続して追求してまいります。

経営基本方針として「基盤事業の収益安定化と成長投資による高収益事業の創出を図り、持続的な企業成長を目指す」としております。

第一に、基盤事業、すなわちITソリューション事業の収益安定化を図るために、特に、前中計において十分な成果が得られなかった「一括請負」について、プロジェクトマネージャーの人材強化、プロジェクト進行を監視する仕組みの構築など、マネジメント力の強化を推し進めてまいります。

第二に、成長投資による高収益事業の創出は、新規事業部門であるITサービス事業が目指す目標です。早期での事業化・収益化を実現するために、自社保有技術の活用、M&Aを含む社外リソースの活用などを積極的に行う方針です。「チケットGATE」の成功事例の拡大に加え、本年10月3日に設立した子会社「株式会社LOCOBEE」（詳細はP12）による新規事業の立上げを新たな成功モデルへと導いてまいります。

さらに、今後も“挑戦型の経営”を継続していくべく、経営の見える化やスピード化など、新たな挑戦を支える基盤の構築にも取り組んでまいります。

当社の新たな歩みにご期待ください。

長期経営目標

前中期経営計画に引き続き、
“挑戦型の経営”の推進を継続し、
「売上高100億円企業」を目指す。

目標とする経営指標

売上高経常利益率 **8%**

経営基本方針

基盤事業の収益安定化と
成長投資による
高収益事業の創出を図り、
持続的な企業成長を
目指す。

成長戦略

1 ITソリューション事業

基盤事業の
収益安定化

- 1 一括請負案件のマネジメント力の強化
- 2 役務案件の収益管理体制の強化による不採算案件ゼロ化

2 ITサービス事業

成長投資による
高収益事業の創出

- 1 自社保有技術を活かした「IT+サービス」の実現
- 2 社外リソースの積極活用（M&Aを含む）による早期での事業化と収益化の実現

3 挑戦型の経営基盤

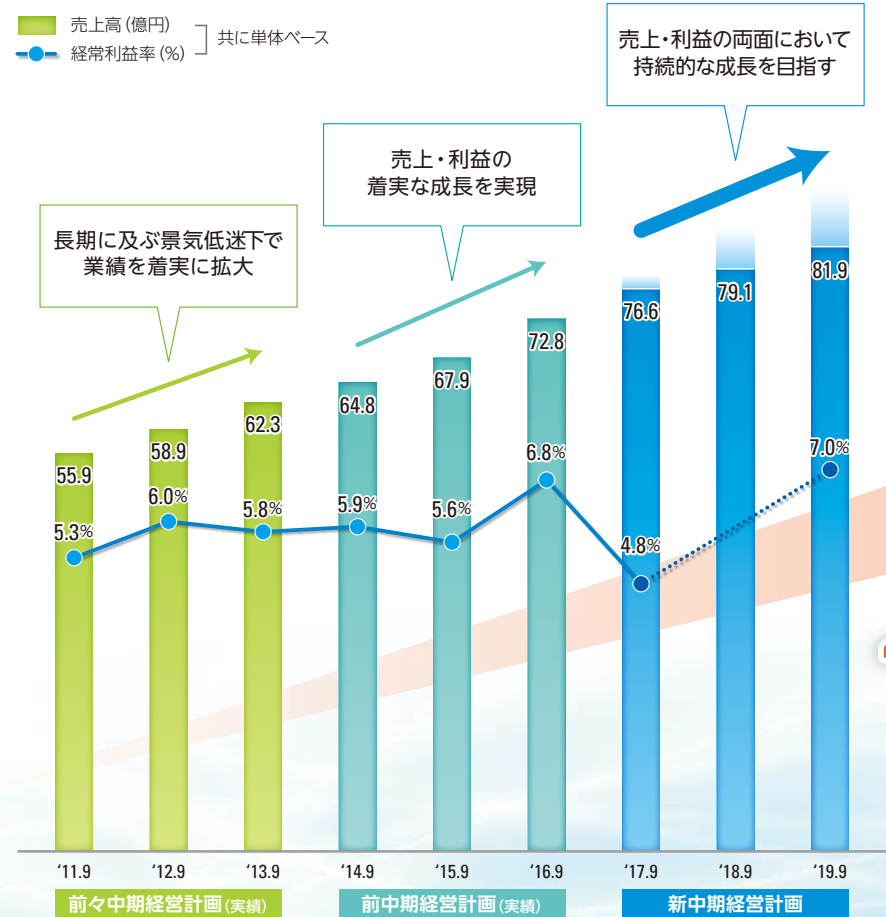
新たな挑戦を支える
基盤の構築

- 1 経営の見える化とスピード化
- 2 PDCAサイクルの全社浸透による「改善力」の強化

資本戦略

持続的な成長に向けて、事業投資（M&A、資本提携を含む）、教育投資、設備投資を適時的確に実施して収益の拡大を目指し、これら長期的な投資が可能な財務の健全性を確保しつつ、株主の皆様に対する持続的な安定配当を図る。

100億円企業を目指す長期経営目標に向け 新中期経営計画をスタート



長期経営目標

100億円企業を目指す

目標経営指標

経常利益率 8%

“挑戦型の経営”
の推進を継続

長期ビジョン

人とITが共鳴する
明るい社会づくり

生産性の
向上

労働力の不足を、人手ではなくITなどによって解消することで、ビジネスの生産性を格段に向上させる

コミュニケーション
の充実

人と人の対話のみならず、それを支援する機械や環境とのコミュニケーションを豊かにすることで、生活しやすい社会をつくる

サービス化
の加速

あらゆる産業がサービス化する。自らもサービスのプレーヤーとなるとともに、産業のこの変化を後押しする

新中期経営計画『Further Advance 2019』では、前中期経営計画に引き続き、長期経営目標として「100億円企業」を目指すとともに、新たな経営指標として「経常利益率8%」という目標を掲げ、より高収益な企業体質づくりを図ってまいります。

加えて、さらにその先の未来を展望した経営を推し進めるべく、「長期ビジョン」を策定しました。「人とITが共鳴する明るい社会づくり」に向け、あらゆる産業のサービス化の加速など今後の時代やニーズの変化を的確に捉えたITソリューション、ITサービスの創出を図ってまいります。

※子会社設立に伴い、次期('17.9)より連結決算がスタートしますが、現段階では単体ベースの計画策定(既存事業中心)となっております。
次期('17.9)からの3期は、新たに設立した子会社「株式会社LOCOBEE」を加えた連結業績の拡大を目指します(売上高のグラデーション部分が、新サービス創出による売上への積み増しを目指す部分)。

当期の事業環境

当期におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあり企業収益は回復傾向にあります。ただし、海外経済での弱さがみられ、中国を始めとするアジア新興国等の景気やイギリスのEU離脱問題の影響もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

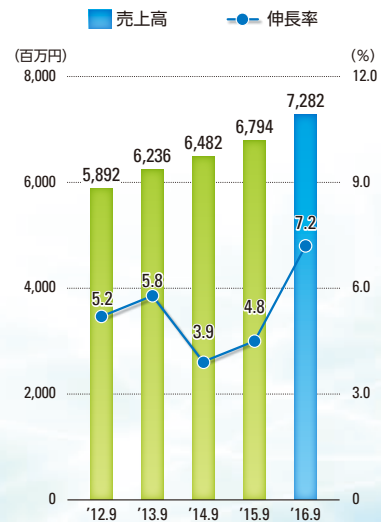
当社が属する情報サービス産業におきましては、ビッグデータ、AI、及びIoTの進展に起因する投資及び金融機関を中心とした情報化投資は増加傾向にありますが、クラウド化に伴いインフラ構築への投資は鈍化傾向となっており、依然として厳しい経営環境になっております。

当期の営業概況

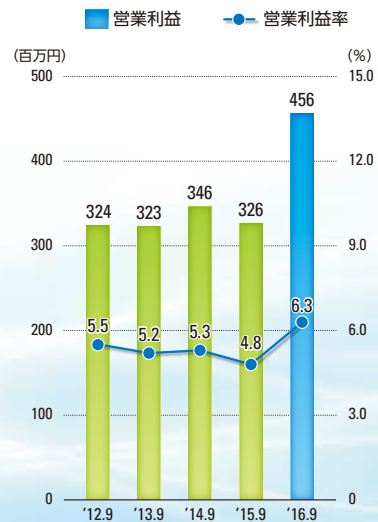
このような状況の中で当社は、当期で終了する中期経営計画として、「ITソリューション事業の安定成長」、「ITサービス事業の成長加速」、「強固な人材基盤・組織基盤の構築」の3つの基本方針のもと更なる事業の成長に努めてまいりました。また、基本方針の1つ「ITサービス事業の成長加速」であるITサービス事業拡大の一環として、子会社の設立準備を進めてまいりました。

これらの結果、当期におきましては、売上高は7,282百万円(前期比7.2%増)、利益につきましては、営業利益は456百万円(前期比40.0%増)、経常利益は497百万円(前期比30.7%増)、当期純利益は312百万円(前期比51.1%増)となりました。

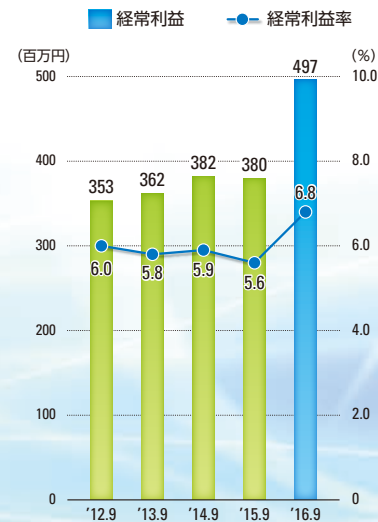
売上高・伸長率



営業利益・営業利益率



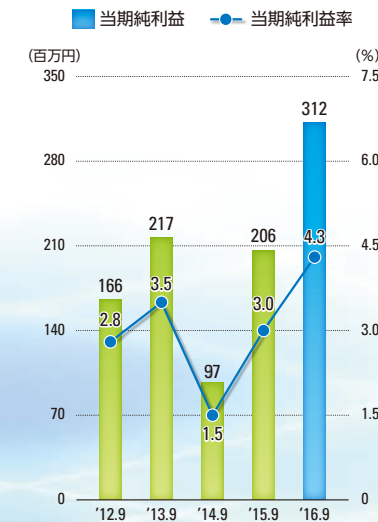
経常利益・経常利益率



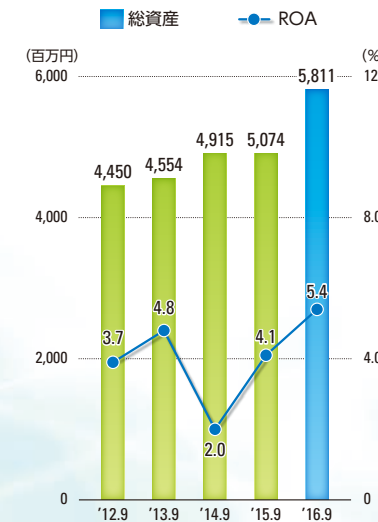
(単位:百万円)

| | 2012.9 | 2013.9 | 2014.9 | 2015.9 | 2016.9 |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 5,892 | 6,236 | 6,482 | 6,794 | 7,282 |
| 売上高伸長率(%) | 5.2 | 5.8 | 3.9 | 4.8 | 7.2 |
| 営業利益 | 324 | 323 | 346 | 326 | 456 |
| 売上高営業利益率(%) | 5.5 | 5.2 | 5.3 | 4.8 | 6.3 |
| 経常利益 | 353 | 362 | 382 | 380 | 497 |
| 売上高経常利益率(%) | 6.0 | 5.8 | 5.9 | 5.6 | 6.8 |
| 当期純利益 | 166 | 217 | 97 | 206 | 312 |
| 売上高当期純利益率(%) | 2.8 | 3.5 | 1.5 | 3.0 | 4.3 |
| 総資産 | 4,450 | 4,554 | 4,915 | 5,074 | 5,811 |
| ROA(総資産当期純利益率)(%) | 3.7 | 4.8 | 2.0 | 4.1 | 5.4 |
| 純資産 | 2,908 | 3,180 | 3,330 | 3,476 | 3,897 |
| ROE(自己資本当期純利益率)(%) | 5.9 | 7.2 | 3.0 | 6.1 | 8.5 |

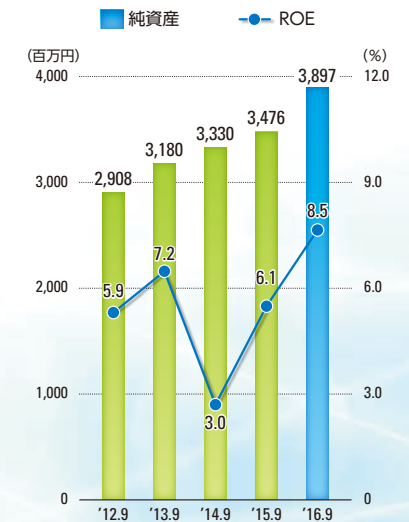
当期純利益・当期純利益率



総資産・ROA



純資産・ROE



各事業部門の概要と当期の概況

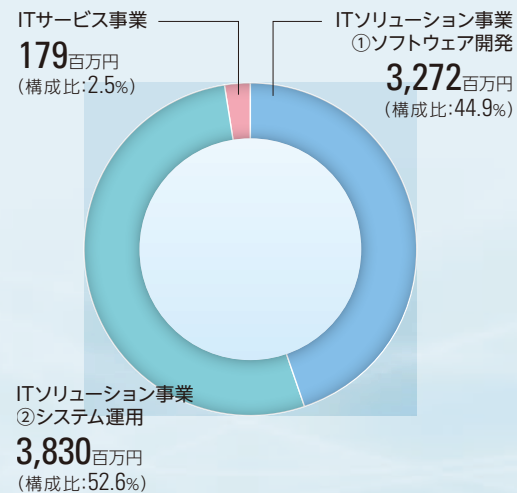
注) 前期(2015.9)より事業セグメントを変更しております。2014.9の数字は変更後のセグメントに組み替えた数値です。

セグメント別の売上高

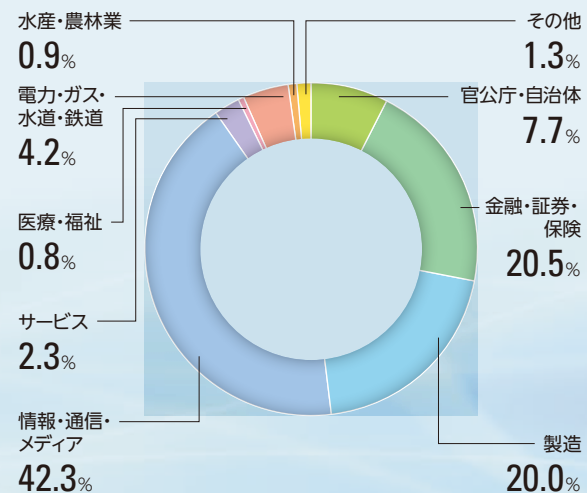
| (単位:百万円) | 2014.9 | 2015.9 | 2016.9 |
|-----------------------|--------|--------|--------|
| ITソリューション事業 ①ソフトウェア開発 | 2,791 | 3,035 | 3,272 |
| ITソリューション事業 ②システム運用 | 3,540 | 3,639 | 3,830 |
| ITサービス事業 | 151 | 119 | 179 |
| 合計 | 6,482 | 6,794 | 7,282 |

売上高構成比

● セグメント別の売上高構成



● 業種別の売上高構成



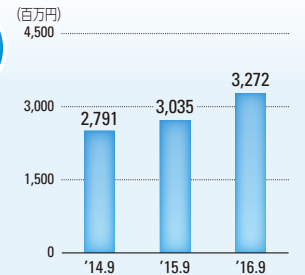
ITソリューション事業①ソフトウェア開発

幅広いお客様のニーズに対応して、業務システムや組込み系システムの開発から、統合パッケージ導入支援、システム統合、更には各社の事業に応じたソリューション対応まで広範囲にわたるフォローをしております。

当期の概況

売上高 **3,272**百万円
前期比 **+7.8%**

売上高の推移



金融・証券・保険、製造等の受注が増加したことなどにより、売上高は3,272百万円(前期比7.8%増)となりました。

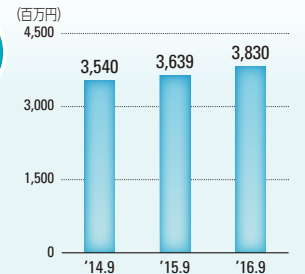
ITソリューション事業②システム運用

『24時間365日フルサポート』を基本に、主に顧客先常駐型のきめ細やかな対応により、システムの運用管理、マシンオペレーションサービス、更に、ネットワーク構築における総合的なサポートを行っております。

当期の概況

売上高 **3,830**百万円
前期比 **+5.3%**

売上高の推移



金融・証券・保険、サービス等の受注が増加したことなどにより、売上高は3,830百万円(前期比5.3%増)となりました。

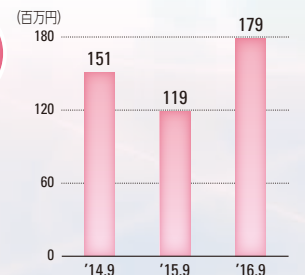
ITサービス事業

主にエンターテインメント市場向けのサービスを展開しており、主力サービスとしては「チケット for Windows」「チケットGATE」があります。その販売、利用料、手数料を主な収入としています。

当期の概況

売上高 **179**百万円
前期比 **+51.1%**

売上高の推移



チケットソフトウェア関連のカスタマイズ作業の受注や手数料収入が増加したことなどにより、売上高は179百万円(前期比51.1%増)となりました。

要約貸借対照表

(単位:百万円)

| | 当期 | 前期 | 前期比 | | 当期 | 前期 | 前期比 |
|---------------|-------------|-------------|------|----------------|-------------|-------------|-----|
| | 2016.9.30現在 | 2015.9.30現在 | 増減 | | 2016.9.30現在 | 2015.9.30現在 | 増減 |
| (資産の部) | | | | (負債の部) | | | |
| 1 ▶ 流動資産 | 4,016 | 3,578 | 438 | 流動負債 | 1,391 | 1,190 | 201 |
| 2 ▶ 固定資産 | 1,794 | 1,495 | 299 | 固定負債 | 522 | 407 | 115 |
| 有形固定資産 | 15 | 15 | 0 | 4 ▶ 負債合計 | 1,914 | 1,597 | 316 |
| 無形固定資産 | 89 | 106 | △ 16 | (純資産の部) | | | |
| 投資その他の資産 | 1,688 | 1,373 | 315 | 株主資本 | 3,329 | 3,109 | 220 |
| 3 ▶ 資産合計 | 5,811 | 5,074 | 737 | 評価・換算差額等 | 567 | 367 | 199 |
| | | | | 5 ▶ 純資産合計 | 3,897 | 3,476 | 420 |
| | | | | 負債純資産合計 | 5,811 | 5,074 | 737 |

1 ▶ 流動資産

現金及び預金、繰延税金資産が増加したことから、当期末の流動資産は、前期末比438百万円増加し、4,016百万円となりました。

2 ▶ 固定資産

ソフトウェアが減少した一方で投資有価証券が増加したことから、当期末の固定資産は、前期末比299百万円増加し、1,794百万円となりました。

3 ▶ 資産合計

固定資産、流動資産ともに増加したことから、当期末の資産合計は、前期末比737百万円増加し、5,811百万円となりました。

4 ▶ 負債合計

未払法人税等、賞与引当金の増加などにより流動負債が前期末比201百万円増加、繰延税金負債、退職給付引当金の増加などにより固定負債が同115百万円増加したことから、当期末の負債合計は、同316百万円増加し、1,914百万円となりました。

5 ▶ 純資産合計

繰越利益剰余金の増加により、当期末の純資産合計は、前期末比420百万円増加し、3,897百万円となりました。この結果、自己資本比率は、同1.4ポイント低下し67.1%となりました。

6 ▶ 売上高

ITソリューション事業、ITサービス事業の受注がいずれも堅調に推移したことから、売上高は前期比7.2%増の7,282百万円となりました。

7 ▶ 営業利益・経常利益

増収に加え、稼働率の向上や販管費圧縮の取り組みが奏効し、営業利益は前期比40.0%増の456百万円、経常利益は同30.7%増の497百万円となりました。

8 ▶ 当期純利益

増収に加え、特別損失の減少などにより、当期純利益は前期比51.1%増の312百万円となりました。

9 ▶ 現金及び現金同等物の期末残高

現金及び現金同等物の期末残高は、前期末比359百万円増加し2,567百万円となりました。主な内訳といたしましては、営業活動によるキャッシュ・フローが税引前当期純利益などにより545百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが投資有価証券の取得、貸付による支出などにより95百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが配当金の支払いにより91百万円の支出となりました。

要約損益計算書

(単位:百万円)

| | 当期 | 前期 | 前期比 |
|------------|-------------------------|-------------------------|------|
| | 2015.10.1~ 2016.9.30 | 2014.10.1~ 2015.9.30 | 増減 |
| 6 ▶ 売上高 | 7,282 | 6,794 | 488 |
| 売上原価 | 6,101 | 5,761 | 340 |
| 売上総利益 | 1,180 | 1,032 | 148 |
| 販売費及び一般管理費 | 724 | 706 | 17 |
| 7 ▶ 営業利益 | 456 | 326 | 130 |
| 営業外収益 | 40 | 54 | △ 13 |
| 営業外費用 | 0 | 0 | 0 |
| 7 ▶ 経常利益 | 497 | 380 | 116 |
| 特別損失 | 0 | 31 | △ 31 |
| 税引前当期純利益 | 497 | 348 | 148 |
| 8 ▶ 当期純利益 | 312 | 206 | 105 |

配当政策と当期の配当金

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つと位置づけ、安定的な配当の維持に努め、その一方で必要な内部留保にも留意し、業績等を勘案の上、利益配分政策を実施することを基本方針としております。

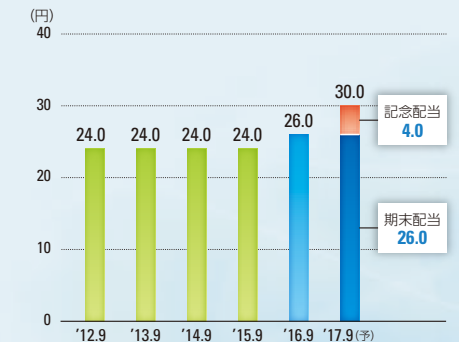
この方針に基づき、当期の利益配当金につきましては、前期実績24円に2円増配し、1株当たり26円とさせていただきます。また、次期の配当につきましては、期末配当を1株当たり26円とし、創立40周年記念配当として4円を加えた合計30円を予定しております。

要約キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 当期 | 前期 | 前期比 |
|------------------------------|-------------------------|-------------------------|------|
| | 2015.10.1~ 2016.9.30 | 2014.10.1~ 2015.9.30 | 増減 |
| I. 営業活動による キャッシュ・フロー | 545 | 389 | 156 |
| II. 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 95 | △ 5 | △ 90 |
| III. 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 91 | △ 91 | 0 |
| IV. 現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少) | 359 | 292 | 66 |
| V. 現金及び現金同等物の 期首残高 | 2,207 | 1,915 | 292 |
| 9 ▶ VI. 現金及び現金同等物の 期末残高 | 2,567 | 2,207 | 359 |

1株当たりの配当金の推移



ITサービス事業の成長加速に向け、2017年1月下旬に新サービス開始予定！ 子会社「(株) LOCOBEE」設立

ITサービス事業の加速のもとで、当社100%出資子会社「株式会社LOCOBEE」を2016年10月3日に設立しました。同社が提供する新たなサービスは、外国人旅行者向けインターネットサービス。「困っている外国人旅行者」と「助けてあげたい地元の人」を共通の言語でつなぐソリューションです。



Q 市場規模(訪日外国人旅行者数)はどれぐらい?

A 2017年頃 **2,000万人** → 2020年頃 **4,000万人**

Q 訪日外国人と話してみたい?

A 話してみたい **94%**

Q 訪日旅行者への支援をしてみたい?

A やってみたい **91%**

このうちの2~3%の利用を想定しても、2020年頃には100万人規模となります。

外国人旅行者を助けてあげたいと考える日本人の割合も非常に多い!

※弊社アンケート調査より

● 会社概要

| | |
|------|---|
| 社名 | (株)インフォメーションクリエイティブ |
| 設立 | 1978(昭和53)年2月20日 |
| 資本金 | 4億7百万円 |
| 従業員数 | エンジニア部門 742名 スタッフ部門 63名 合計 805名 |
| 業務内容 | 1. コンピュータシステムの運営管理の受託 2. 情報処理サービス、情報提供サービス及びそのコンサルティング並びにこれらに関する労働者派遣業務 3. コンピュータソフトウェアの開発、販売 4. 小型コンピュータ、コンピュータ関連機器及び事務用機器の仲介、販売、貸付 |

● 事務所

| | |
|----------|---|
| 本社 | 〒140-0013 東京都品川区南大井六丁目22番7号 TEL.03-5753-1211 FAX.03-5753-1220 |
| 茨城開発センター | 〒300-0037 茨城県土浦市桜町一丁目16番12号 TEL.029-826-1632 FAX.029-826-1069 |

● 役員

(2016年12月22日現在)

| | |
|------------------|-------|
| 代表取締役社長 | 山田 亨 |
| 常務取締役 | 小沢 庸司 |
| 常務取締役 | 須賀 明宏 |
| 取締役 | 吉田 明芳 |
| 取締役 | 齋藤 良二 |
| 取締役 監査等委員(社外) | 岡本 秀一 |
| 取締役 監査等委員 | 菅原 徹 |
| 取締役 監査等委員(社外) | 藤田 稔 |

● 株式の状況

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 12,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 3,866,135株 |
| 株主数 | 1,447名 |

● 大株主の状況

| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|-----------------|------------|-------------|
| IC従業員持株会 | 343,119 | 8.96 |
| 一般財団法人IC齋藤育英会 | 166,000 | 4.34 |
| 有限会社承 | 163,363 | 4.27 |
| 株式会社フュージョンパートナー | 125,000 | 3.26 |
| 史 海波 | 110,100 | 2.88 |
| 上野 正敏 | 104,000 | 2.72 |
| 須賀 明宏 | 94,125 | 2.46 |
| 山田 亨 | 91,975 | 2.40 |
| 小沢 庸司 | 78,481 | 2.05 |
| 庄子 浩 | 77,600 | 2.03 |

(注)持株比率は、自己株式(37,251株)を控除して計算しております。

● 株式分布状況

